

平成27年度 全国ママさん交歓大会結果 (Aブロック)

(北海道札幌市開催)

【1回戦】

デレッターズママ 45 { $\begin{matrix} 4 & - & 7 \\ 17 & - & 7 \\ 17 & - & 6 \\ 7 & - & 7 \end{matrix}$ } 27 ARASHI(大阪)

氏名	時間	得点	3P	2P	自由投	アシスト	リバウンド	スティール	ブロック	ターンオーバー	反則	総合P
菊池美佐紀	14	2	-	1/5	-	1	8	5	0	1	2	19
末永裕美子	8	0	-	0/3	0/2	0	4	1	0	1	0	9
増田啓子	20	6	-	3/8	0/1	0	8	4	0	5	0	18
佐藤明美	16	2	0/2	1/2	-	3	5	3	1	3	2	18
岸 朋子	19	2	0/1	1/2	-	0	5	2	0	1	1	12
新城麻衣子	4	2	-	1/2	-	0	0	1	0	0	0	8
増田和代	21	26	6/12	4/8	-	0	8	2	1	1	2	40
大林恵美	5	0	-	0/3	-	0	2	0	0	1	0	6
保科 梓	9	1	0/4	0/2	1/2	0	1	0	0	0	0	7
小泉恵理	14	0	0/2	0/2	-	3	3	1	0	1	0	14
伊藤昌代	20	2	0/4	1/2	-	2	2	2	0	0	0	15
渡邊知子	7	2	-	1/1	-	0	2	1	0	1	2	7
山本 歩	2	0	-	-	0/2	0	2	0	0	0	0	7
新里雪枝	3	0	0/1	0/1	0/2	0	1	0	0	0	0	6
奥積真紀子	1	0	-	0/2	-	0	0	0	0	0	0	5
合計		45	6/26	13/43	1/9	9	51	22	2	15	8	
シュート率			23%	30%	11%							

【戦評】

今年はミケ、マチャが怪我で不出場、カズが1月の前十字の手術以来初試合ということで、スタートは カン、シノ、ケイ、テン、それに初出場のケンの5人。今回はこの3年で一番よく練習して、いい感じで大会に入れたと同時に、今回のブロックは非常に厳しいブロックであるということで、皆危機感を持って臨むことができた。

前日に「大倉山ジャンプ場」、本日は「小樽」と観光してきたが、去年の経験からしっかり試合モードに入れる時間には体育館に入った。体育館は去年のような暑い体育館ではなく、快適ないい体育館だった。

初戦の相手は大阪のチームで、全国ママ常連のチームではあるが、ABブロックには入った事がないチームではある。高さはスタート平均で169対165で若干うちの方が高い。年齢は平均41歳で同じ。アップを見る限りでは、人数も少なく要注意は16番だけかなという感じ。実際にスタートすると、その16番に3Pを決められて先制される。すぐにケンのシュートで2-3。相手も1ゴール加えて2-5とされる。しかし相手の攻撃はさほど強力な感じはしないのだが、うちの方が全員非常に動きが硬く、ボールは止まるし、攻撃に積極性が全くない。そこを修正しようということで練習してきたはずなのに、その練習の成果がまるで出ない。

6分で4点と流れが悪い。リズムを変えようとシノ、テン、カンをいっぺんに交代。しかし、1Qは4点で終了。2Qの4分によやく同点。それ以降はシノ、テン、カズと立て続けに決まり、前半は21-14で終了。どうにかリズムが出てきた感じ。どうもスタートが悪いクセがなかなか直らない。3Qはテンの3Pが3連続で決まり、一気に差を広げて安全圏に入った。数字を見ると、3Pはテンの6本のみで23%、2Pも本数はそこそこ打っているが成功率30%とかなり低い。自由投に至っては、9本中1本と相変わらずの悪さである。この相手に総得点45点というのも感心しない。大いに反省の要あり。

ラストに真紀を投入。まだ怪我が癒えてないこともあり、ディフェンスに戻らないでいいという異例の指示のもと出場。得意のバックシュートのチャンスがあったが、失敗。しかし、新しいユニフォームで全員が全国大会のコートに立ててよかったと思う。

【準決勝】

デレッターズママ	{	61	}	48	J B C (千葉)
		15	-	14	
		16	-	13	
		20	-	5	
		10	-	16	

氏名	時間	得点	3P	2P	自由投	アシスト	リバウンド	スティール	ブロック	ターンオーバー	反則	総合P
菊池美佐紀	16	0	-	0/3	-	0	9	3	1	2	1	16
末永裕美子	12	2	-	1/4	-	1	0	1	0	1	0	7
増田啓子	20	17	-	8/13	1/2	1	8	2	1	0	1	35
佐藤明美	15	5	1/4	1/3	-	2	5	0	0	2	0	17
岸 朋子	14	0	0/1	0/1	-	0	3	0	0	1	1	6
新城麻衣子	4	0	0/1	-	-	0	0	1	0	0	1	5
増田和代	20	12	2/8	2/5	2/4	2	3	3	0	1	0	26
大林恵美	5	0	-	0/1	-	0	1	0	0	0	1	5
保科 梓	7	9	3/5	-	-	0	1	1	0	0	0	16
小泉恵理	18	3	-	1/4	1/2	1	1	2	1	1	0	14
伊藤昌代	20	11	2/5	1/4	3/3	1	4	2	0	2	1	21
渡邊知子	8	0	-	0/3	0/2	0	2	1	2	0	3	9
山本 歩	3	0	-	-	-	0	3	0	0	2	0	6
新里雪枝	3	2	-	1/3	-	0	0	0	0	0	0	7
奥積真紀子	1	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	5
合計		51	8/24	15/44	7/13	8	40	16	5	12	9	
シュート率			33%	34%	54%							

【戦評】

準決勝は朝9時から試合開始ということで、7時半にはホテルを出発。まず体と頭を起こすところから試合は始まる。相手は千葉代表で、毎年のように全国に出ているチームでかなりの強敵との前評判だった。年齢もスタート平均で3.5歳うちより若く、高さは2cm差とほぼ変わらない。しかし、1回戦の1Qだけ見ることができたが、ディフェンスがゆるくドライブもかなりやられていた印象だった。

試合開始直後相手の32番(桜庭)に3Pを決められ、またしても先制された。しかし、その後ケンが昨日の反省から積極的にドライブ、3Pを決めて一気に10-3とリード。やはりこの展開になると少し余裕が出てくると同時に、相手にも精神的ダメージを与えることができる。しかし、その後32番の3Pやフリースローでじわじわ追い上げられて、前半は31-27と4点リードで終了。相手のディフェンスの弱さを体感できたので後半の目安はついたが、32番だけは要注意で、マークマンは他にヘルプに行かずに、徹底的にマークするというを確認した。

3Qの4分までは4点差だったが、その後はケイのゴール下が面白いように決まりだして、さらにミーコ、テンの3Pで一気に勝負を決める。ディフェンスも徹底マークが成功し、このQは5点に押さえた。さらに、4Qに入って、梓の連続3Pで57-32と開いた。準決勝で思いのほかの楽勝ペースになったので、ケイ、テン、ケンは完全休養し、1回戦に引き続き4Q半ばから全員が出場。新里が気持ちよく2Pを決めてフィニッシュ。やはりスタートダッシュが成功すると、追いかける展開になるのでは大きな差があることを改めて実感した。

数字的には、3Pと自由投の成功率、本数は大体うちの平均ペースだが、2Pは44本打っているのはまあまあだが、34%の成功率は1回戦に引き続きちょっと低い数字である。リバウンド等の数字はこんなものでしょう。総得点が60点台になるとやはり勝ち試合になる。いずれにしても、2試合続けて全国大会に全員が出場できたのは嬉しいことである。

【決勝戦】

$$\text{デレッターズママ } 31 \left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 13 \\ 9 \\ 7 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} - \\ - \\ - \\ - \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} 15 \\ 9 \\ 7 \\ 10 \end{array} \right. \} 41 \text{ ブルーインズ・レッツ(埼玉)}$$

氏名	時間	得点	3P	2P	自由投	アシスト	リバウンド	スティール	ブロック	ターンオーバー	反則	総合P
菊池美佐紀	14	2	-	1/3	-	0	3	1	0	3	3	5
末永裕美子	5	2	-	1/2	0/2	1	1	0	0	3	0	7
増田啓子	31	14	-	7/15	-	0	6	5	4	3	1	33
佐藤明美	25	1	0/1	0/3	1/2	3	4	5	0	1	1	19
岸朋子	26	0	0/1	0/1	-	1	5	5	0	2	0	15
新城麻衣子	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
増田和代	31	8	2/8	1/4	-	2	4	1	1	3	5	16
大林恵美	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
保科梓	1	0	0/1	-	-	0	0	0	0	0	0	5
小泉恵理	21	2	-	1/3	-	1	4	0	0	2	0	11
伊藤昌代	10	2	-	1/1	-	1	3	1	0	1	0	12
渡邊知子	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
山本歩	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
新里雪枝	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
奥積真紀子	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	3
合計		31	2/10	12/32	1/4	9	28	18	5	18	10	
シュート率			20%	38%	25%							

【戦評】

いよいよ決勝戦である。3連覇をかけて戦う相手は現在のママさんでは最強とされる埼玉のブルーインズ・レッツ。平均年齢はうちより3歳若く、身長は1.6cmうちが高い。事前の話では、週3回の練習をこなし、試合ではオールコートプレスというおそママさんのチームとは思えないということだった。また、相手のエースセンターはこの大会以外はうちでも試合に出ている岩崎(アッコ)とか、お互いてのうちを知っているということからも難しい試合になることが予想された。

試合開始。やはり攻守に非常に早いペースで走り回られ早くもアップアップ。アッコにはシノをマッチアップしてディフェンスに専念してもらおう。しかし、相手のペースにはまって失点はともかく例によって得点がとれない。シュートは結構打っているが、きちんとした体制、タイミングのシュートが全く打てないので得点につながらない。4分でタイムアウトを取って落ち着かせようとしたが、相手のペースを崩せない。結局1Qは2-15という大きなビハインドとなった。この相手に13点差は相当厳しい。しかし、2Qから少し落ち着きが出て、ケイのゴール下が決まりだし、相手のシュートも意外に落ちるので、じわじわ挽回。9点差で前半終了。ただ、ケンが2Q4分で肉離れを起こしてリタイア。これが後半効いてきた。

執拗にディフェンスが前から当たってきて、すぐにダブルチームでプレッシャーをかけてくるので、後半はカンミーコ、カズの3ガードで対抗。攻撃はケイのインサイドが有効だが、テン、カズの外郭がイマイチ決まらない。それでも3Qはディフェンスも頑張り、24-31と7点差まで挽回。数字的には射程距離に入ってきた。しかし、ケンがいなくなったことで3ガードの疲れが目立ちはじめ、4Q開始直後に2ゴールを決められて苦しくなった。シノ、ムラとセンター陣を入れてつないだが、得点につながらない。そして、テンが5反則で退場。万事休すとなった。結局31-41の10点差でついに敗戦。残念ながら全国3連覇はならなかった。

とは言うものの、全国大会3年連続決勝進出で、十分楽しめたし、一番ではなかったけど全国で2番目に強いママさんチームと言ってもいいと思うので、胸を張って東京に帰りましょう。

【総評】

今年も東京の予選を絶対優勝しないと全国に出場できないというプレッシャーの中、しかも準決勝、決勝といずれも1点差の逆転勝ちという苦しい試合を勝ち抜いて、全国に出場できたのは、この2年半ママの試合は負けなしの31連勝の実績と全国2連覇の経験によるものだと思う。

しかし、東京の予選でこれだけ苦戦したのは、明らかに準備不足である。連勝を続けてきたことによる心の緩みもどこかにあったと思うし、事前の練習も江東区民大会の2試合のみのような状況で、これが苦しい試合につながったのは明らかである。それにしても1点差でも勝って全国に行けると、行けないのでは天と地ほどの違いがあるなど実感した。やはり、来年の福岡にも是非とも出場したいと思う。そのためには、事前の準備を来年はしっかりやりましょう。

東京の予選に対して、全国前の練習は非常にいいものがあり、皆の意識が集中していたように感じました。ただ、その成果が本番でなかなか出てこなかったのは残念だったが、これは来年にきつとながらと思う。何度も言ってきたことではあるが、出足の悪さを何とか解消するようになっていくことが大事かと思う。今回の1回戦でも1Qで4得点というのは、このメンバーで考えられない数字である。東京の予選でもMYC戦の1Qで2得点、決勝の4Qで4得点と苦戦の原因はここにあることは間違いない。これはこの3年間ずっとつきまとっている問題点なので、この対策を今後考えていきたい。

今回の決勝は、対戦してみて決して勝てない相手ではないということがわかった。アッコを初め相手のセンター陣は完璧に押さえたし、総得点も41点とロースコアに押さえられた。また、相手の攻撃も速攻以外のペイントエリアでのシュートはディフェンスが付いていれば結構落としていたので、うまく戦っていたと思う。しかし、28歳と36歳の生きのいいガード陣に攻守ともにやられた。特に、当たりの強いディフェンスにより、うちの攻撃のリズムを狂わされ、スタミナも奪われたのが痛かった。

それに対し、うちの方はやはり1Qの立ち上がりの悪さが致命傷になったが、これはいつもの出足の悪さというよりも、普通のママのチームにはないディフェンスの当たりの強さ、スピードに、わかってはいたつもりだが、やはり初めての対戦で途惑ってしまった結果だと思う。しかし、2Q以降はそれでも何とか対応できていたように思う。だが、スタミナでは勝てそうもない上に、ケンが途中でリタイアしたのでガード陣の回転が苦しくなって、40オーバーのガード陣のスタミナが4Qで切れてしまったことと、3Pがテンの2本のみで、後1本でも2本でも決まっていれば違う展開になっていたのではないかと思う。

いずれにしても、一度対戦して相手のこともよくわかったので、2年後に対戦するときには全員が万全の体勢で臨み、ぜひともリベンジして日本一のママさんチームを目指しましょう。

また、今回もナチとイクがマネージャーとしてサポートしてくれて大いに助かりました。来年は、故障で行かれなかったマチャとミケを含めて、再び総力戦で今回33連勝で途切れた連勝記録の更新と、福岡目指して頑張ろう。